

終わりの見えない自粛が続くライブイベント業界

東京は本日(2020年5月22日)現在、未だ緊急事態宣言の解除もされておらず、また解除宣言がなされた府県も、普段の仕事や生活に戻りつつも、感染第2波の恐れもあり、日常を取り戻すまでにはまだまだ時間がかかる事が予想されます。

当然、いわゆる“三密”になるライブイベントの通常的な実施はまだ時期尚早で、ソーシャルディスタンスを保った上での実施は、観客数の減少に直結し、チケット価格の高騰や、予算削減によるクオリティの低下に繋がります。

それ以前に、未だ治療法が確率されていない今、ライブイベントを実施する事自体が、観客やアーティスト、スタッフを生命の危機に晒す事にもなりかねません。

観客とアーティスト、スタッフの生命を第一に考え、いち早く自粛要請に従い、終わりの見えない我慢を強いられるライブイベント業界。

慣れ親しんだライブハウス閉店や、ツアーやフェスの中止を伝えるニュースを見る度、仕事や生活に不安を抱え、廃業や転職を考える人も少なくないと思います。

また、泣く泣くこの業界から去ってしまわれた方もいらっしゃるでしょう。

いつ元通りライブイベントができるようになるのか？

新型コロナウイルスに感染しても治療が可能な特効薬や、未然に感染を防ぐ事が出来るワクチンが開発され、副作用の心配もないと実証済みのものが十分な数量確保でき、各国の医療機関に行き渡る事で「新型コロナに感染しても大丈夫」という安心材料を得た時。

それでも、感染過程で変異するウイルスに対応していくには、特効薬やワクチンを開発し続ける間、やはり「元通り」には戻れないのかもしれない。

「最短で9ヶ月、最長2年以内にワクチンが開発できる」
(<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/p1/20/05/06/06887/>)

果たして我々は、最短で9ヶ月、最長で2年もの間、この自粛を継続できるのだろうか？

耐えた先に「元通りのライブイベントができる未来」はあるのだろうか？

人が生きていくために必要な「衣・食・住」を最優先に守るため、関連する企業への保証や、制度改正などは(とても鈍い動きではあれ)順次行われていくでしょう。

我々が生業とする「娯楽」は当然、後回しです。

いつ再開できるかわからない、再開しても元通りできるかわからないライブイベントを、ただ待っているだけでは生き残れない。

ライブイベントが生き残るためには、我々が生き残らなければいけない。

自分の身は自分で守るしかない。

ピンチをチャンスに変えて

新型コロナウイルスが地球上から消えてなくなる事はなく、我々は「新型コロナウイルスと戦いながら共存していく」という新時代を突然迎えました。

不謹慎かもしれませんが、この突然のピンチこそ「チャンス」に変えられるのでは？と考えています。

飽和した類似サービス、成熟し変化の乏しい業界常識は一旦リセットされ、世界中の人々が「ゼロからのスタートを同時に切る」という、通常ではありえない「チャンス」です。

まず「元通りのライブイベントができる未来」は、一旦置いておきます。

諦めるのではなく、一旦、置いておく。

もしもできる未来が訪れたら、またみんなで、楽しくて素晴らしいライブを創りたいと思います。

そんな未来がやってくるまでの長期間、ただ何もせず待っていたら、会社が潰れます。

ライブイベントを現場で支える関連企業の倒産や廃業、スタッフやフリーランスの他業種転職は、貴重な業界財産の大損失で、一度失われたら最後、元には戻せません。

「無観客ライブの映像配信」なども、生き残り手段のひとつかもしれませんが、いくらそれを高画質・高音質で視聴したところで、生のライブの体験価値には敵うはずありません。

- ・観客を一箇所に集客する事なく、三密を避け
- ・ライブイベントに携わってきたプロたちの経験と技術を活かした
- ・観客がいないからこそ実現できる、今までのライブイベントにはない表現方法で
- ・記録映像の視聴だけでは得られない体験価値を得ることができ
- ・顧客も主催側も、両方が満足できるマネタイズまで考えた

『新しいライブエンターテイメント ジャンルの創造』

にチャレンジしています。

このプロジェクトは、自粛期間が始まる前からボンヤリと考えていたところに、考えを同じくする、某有名アーティストの所属事務所の方から相談を持ちかけられ、共に開発を進める事になりました。

まだまだ手探りではありますが、目指す完成形の壮大な青写真は描きました。

それに賛同してくれる有名アーティストやグループ、団体、大手企業も集まり始めました。

生のライブイベントが復活するまでの中継ぎ的なサービスではなく、復活後も引き続き生業としていけるサービスとして、また、音楽ライブイベントだけでなく、様々なシーンで活用できるように考えています。

ライブイベント業界で活躍してきたプロの皆さんのご協力はもちろん、今までご一緒した事のないような他業種の方にもご協力頂かないと実現できないので、色んな方からのご意見やアイデアをもらいながら、チャレンジしたいと思います。

スタッフ募集について

本プロジェクトは、企画立案のフェーズから、実際に機材を組んでトライし検証するフェーズに入り、本番実施のスケジュールも見てきたので、ここからは層の厚いプロジェクトチームをしっかりと組んで進めたいと考えており、急遽ではありますが、一緒にチャレンジしてくれるスタッフを募集します（中途採用）。

特に、新型コロナの影響で立ち行かなくなってしまったライブイベント業界の方や映像業界の方を中心に、ゲームやアプリの開発やプログラミングに詳しい方、VR/ARに詳しい方、アーティストのマネージメントやイベント制作、現場経験のある方を緊急募集します。

正社員、契約社員など、雇用形態は面談/面接でご希望を伺いつつご相談させていただきますが、せっかく得た経験値が無駄にならぬよう、まずはライブイベント業界で生き残り、復活するまでの一時的な仮宿としてでもかまいませんので、少しでも興味ある方は、一度お話を聞いて頂けると幸いです。

また、知人へのご紹介や拡散も大歓迎ですので、私の事や当社の事を知らない方とも出会えたらいいなと思っております。

「我慢して耐える」のではなく、「逆境にこそ挑戦する」

顧客側も主催側も安心して音楽を楽しめる場を新しく創造し、音楽ビジネスと市場の発展を止める事なく、ライブイベント業界を維持し守る事ができるよう、是非、力を貸してください。

何卒よろしくお願いいたします。

有限会社ワムハウス

代表取締役 中村 和明

スタッフ募集要項(中途採用)

●業務内容

- ①プロデューサー
- ②イベントディレクター/舞台監督
- ③映像ディレクター
- ④アシスタントディレクター
- ⑤アーティストマネージャー
- ⑥ゲーム/アプリ開発スタッフ
- ⑦VR/AR 開発スタッフ
- ⑧音楽制作スタッフ
- ⑨その他

●雇用形態

- ・正社員
- ・契約社員

※希望がある場合 応相談

●契約期間

- ・期間の定めなし

※希望がある場合 応相談

●試用期間

試用期間あり(3カ月～6ヶ月)

※経験を考慮し当社規定による

●就業場所

(A)東京都世田谷区尾山台 3-22-13

(B)神奈川県川崎市高津区千年 1251

●勤務時間

(a)9:30～18:30

(b)フレックスタイム制

(c)裁量労働制

●休日休暇

・週休2日制(土日)、祝祭日、有給休暇、夏季、年末年始、慶弔、育児休暇等

※休日出勤の場合:代休制度あり

●給与

・プロデューサー職:月40万円以上

・ディレクター職:月30万円以上

・その他:月25万円以上

※経験を考慮し当社規定による

●昇給賞与

昇給:年1回

賞与:あり(業績や経済状況に応じて支給)

●諸手当

通勤手当、残業手当

●加入保険

雇用保険、社会保険(年金保険、健康保険 含む)

●応募方法

・連絡先をご存知の場合は、直接ご連絡ください

・郵送もしくはメールにて履歴書、職務経歴書をお送りください

書類選考の上、後日 面接日時を連絡します。

●履歴書 宛先／お問い合わせ

(郵送の場合)

〒158-0082 東京都世田谷区等々力 8-18-9

有限会社ワムハウス 採用担当 宛

(メールの場合)

info@wamhouse.net